



もりメイト倶楽部 Hiroshima 発【森づくり啓発シリーズ】 ～こんな事にも関わっています～



■もりメイト倶楽部 Hiroshima では「森林整備の重要性」を多くの人々に理解していただくため、あらゆる場所で啓発活動の事業を展開しております。今回は、中区千田町にある「広島市健康づくりセンター 健康科学館」にて木工クラフトを行いました。中国新聞にも紹介されましたが、その経緯や取り組みをご紹介します。

■健康科学館では、子ども達が健康や自分の体に関心を持つきっかけをつくることを目的として、小学生を対象とした工作教室やイベントを行っています。その一環として、心身の健康に良い影響を与える木に着目し、子どもたちが実際に木に触れ、自然について考える機会を作りたいと考えておられました。

2018年に当時の館長が以前仕事を通して山本恵由美理事長と交流があり、「もりメイト倶楽部 Hiroshima」へ木工工作の教室のご相談があり、その趣旨に賛同して依頼をお受けして現在に至ります。

～楽しみながら木に触れ、自然を考える場に～

健康科学館にて木工クラフト 副理事長 本廣 良一



森の役割について話す山本理事長(中央)

当日(12月24日：土曜)は親子11組、28人が参加し、午後1時30分にスタートしました。もりメイト倶楽部の紹介の後、山本理事長が『ひと昔前は山に入り木を持ち帰って燃やし料理や風呂を沸かす生活でした。今はスイッチを押せばご飯もできる時代になり、山に人が入らなくなり荒れて暗い森になっています。山が荒れると災害にもつながります。』と、絵を使って子どもたちにわかりやすく森について話し、さっそく《干支のうさぎクラフト工作》に入りました。

まず、みんなで台座となるヒノキの丸太を輪切りしました。その中で、ノコの扱いが素直で真っ直ぐに切る子供がいて、家で切ったことは無い、ノコを持つのは初めてと聞き、見勢井顧問がその素質にびっくり。また、見勢井顧問が『葉っぱ裏を見るとXYZのどの文字が見えるかな?』と、ヒノキの特徴を説明。枝を飾ったり綿で雪を表現したり色々工夫を凝らし、終了予定の午後3時30分ぎりぎりまでみんな頑張りました。最後にみんな一言ずつ感想を言って終了となりました。【指導員：山本・見勢井・本廣】

コメントをいただきました



教室では、人と森との関係や、会員の方々による森の整備活動を通して出た間伐材などの材料がどんなふうやってきたかを聞くことができ、森の役割や保護について知る貴重な機会となっています。また、日頃自然にふれることがなかなかない子どもたちに木をノコギリで切ったり、木の手触りや匂いを感じたりと、五感を通じて自然に親しむ良い経験になっています。

教室で作った作品を家に持ち帰って、話をしてもらうことで家族にも自然を楽しみ守りたくなる気持ちを伝えてくれていると信じています。

間伐材でウサギの木工品を作る小学生



ウサギの木工品
上手にできたよ
2023年のえとにちな
んだウサギの木工品を間伐
材で作る教室が広島市中区
の市健康科学館であった。
市内の児童と保護者たち28

人が手作りの魅力に触れた。

県内の森を手入れするNPO法人「もりメイト倶楽部Hiroshima」(同区)のメンバー3人が講師を務めた。子どもたちはヒノキの丸太を講師と一緒にのこぎりで切って土台を制作。リョウブの枝などを頭や体に見立てて接着剤で付け、手のひら大のウサギを作った。
ヒノキやリョウブは法人が伐採して用意した。「木の間に日光を通すと土壌が豊かになり、土砂崩れも起きにくくなる。木を使って自然を守っているんだよ」と意義も伝えた。
広島大付属雲雀小2年国

原美智さん(8)は「のこぎりを使えて楽しかった。玄関に飾り、習い事のバレエを頑張りたい」と喜んでいました。

1月11日(水)
～中国新聞にて掲載～